



平成 30 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 ホクト株式会社
代表者名 代表取締役社長 水野 雅義
(コード：1379 東証第1部)
問合せ先 専務取締役管理本部長 高藤 富夫
(TEL . 026 - 259 - 5955)

平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 30 年 5 月 11 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期の第 2 四半期累計期間（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）の連結業績予想値と本日公表いたしました実績値との差異につきまして、下記の通りお知らせいたします。あわせて、平成 31 年 3 月期（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）の通期の連結および個別の業績予想について、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期（累計）の連結業績予想値と実績値との差異（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 29,200	百万円 3,050	百万円 2,890	百万円 2,260	円 銭 67.75
実績値(B)	29,881	1,990	1,301	1,132	35.25
増減額(B-A)	681	1,059	1,588	1,127	
増減率(%)	2.3	-	-	-	
(ご参考)前第 2 四半期連結実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間)	27,779	2,783	2,502	1,955	60.88

2. 差異の理由

当第 2 四半期連結累計期間におきましては、主力の国内きのこ事業については、前半、単価は弱含みに推移しましたが、6 月から 7 月の豪雨、その後の記録的な猛暑等が影響し、果菜類中心に品薄状態による高値傾向が続いた結果、きのこ類の需要も高まり単価も回復しました。また、きのこの効果・効能に対する関心の高まりも販売量及び単価の上昇に繋がりました。一方で、9 月の北海道胆振東部地震に起因する停電により、苫小牧きのこセンターで被害が出たものの、上記理由により業績は堅調に推移、計画を上回りました。

計画上回りの主要因は国内きのこ事業にあります。加工品事業及び海外きのこ事業も堅調に推移し計画を上回りました。

3. 平成31年3月期通期の連結業績予想値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 68,200	百万円 2,240	百万円 2,850	百万円 1,840	円 銭 55.16
今回修正予想(B)	68,700	3,340	4,490	3,020	90.53
増減額(B-A)	500	1,100	1,640	1,180	
増減率(%)	0.7	49.1	57.5	64.1	
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	66,907	3,181	4,033	2,418	75.22

4. 平成31年3月期通期の個別業績予想値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 48,300	百万円 1,980	百万円 2,800	百万円 1,870	円 銭 56.06
今回修正予想(B)	48,300	2,780	4,190	2,790	83.64
増減額(B-A)	-	800	1,390	920	
増減率(%)	-	40.4	49.6	49.2	
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	47,496	3,006	4,170	2,476	77.01

5. 修正の理由

下期につきましては、ほぼ計画どおりの業績を見込んでおりますが、きのこ市場は気候要因や野菜市場の環境等に影響を受けるため不透明な要素が残るものの、第2四半期までの実績に鑑み、通期業績予想を上方修正いたしました。

(注) この資料に記載されております業績等の予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上